
ゲッターロボGO！！

獅守空弩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゲッターロボGO!!

【Nコード】

N9556T

【作者名】

獅守空弩

【あらすじ】

メカザウルスを率いて地上奪還を目論む恐竜帝国帝王ゴール。13年前ゲッターロボのパイロットとして恐竜帝国と死闘を繰り広げた神隼人は、新たなゲッターロボを開発していた。一方、殺人的な剣の腕前を持つ少年・一文字號は、偶然恐竜兵士が人を殺している現場を見てしまう。

漫画、アニメ、ゲーム、これらを基に構想を新たにする新たなゲッターの物語がここに始まる!!

主人公設定（前書き）

初投稿で少し緊張気味です

とりあえず主人公と主人公機の設定を……

主人公設定

いちもんじ
一文字 號

国籍 日本

年齢 17歳

身長 165センチ

体重 74キロ

髪 黒 無頓着な髪型

瞳 黒（やや三白眼）

特技 剣道

趣味 特撮鑑賞 昼寝 戦略ゲーム

13年前の恐竜帝国との戦いの際に孤児になる。その後お隣さんであつた吉井家に引き取られた。

幾度も剣道の全国大会に出場するも全て予選落ち……だが、実は手を抜いていてわざと負けている。理由は「剣道をやっているのは優勝するためじゃなくて、自身の修行のため」だから。彼にしてみれば優勝狙いの剣道はダンスと同格扱い。

性格は明るく正義感も強いが、熱くなりやすく少しそっかしいのが玉にキズ。女性関係に関してはヘタレ同然。丸腰や無抵抗の相手には攻撃しないというポリシーを持つ。だが、一方的な暴力をふるう相手には泣くまで殴り続ける。

恐竜兵士を生身で倒したところをある人物に見られてしまい……

ゲッター1

ゲッター線を使用しない、プラズマ駆動のゲッターロボ。地上戦及

び格闘戦を重視した人型の体型である。

メインパイロットは號。

使用武器 チェーンナックルボンバー ブーメランソーサー レッ
グブレード プラズマシューター

イメージはネオゲッターの没案。わからない人は青いドラゴンだと思ってください。

主人公設定（後書き）

だいたいこんな感じですね。

竜馬と違って號は作品によって性格が大幅に違ってから違和感あっても大丈夫……多分

本編は次回からです

ブローグ 前編（前書き）

ゲッター屈指の名シーンを自分なりに新たに解釈、構想した話です。

駄文ですがどうぞ読んでください。

プロローグ 前編

13年前……

数多の戦いを越え、様々なメカザウルスを葬り去ってきた我らの希望ゲッターロボ。

だが、今の姿は凄惨であった。

左腕は千切られ、顔は抉られ、目立った傷のない部分も鳴り止まぬ雷鳴の様にしきりに火花が散っていた。

立っているのでさえギリギリだろうに、それでもゲッターロボは待ち構える幾多のメカザウルスに挑み続ける。

「……へっ……トカゲ野郎の癖になかなかやるじゃねえか」

ベアー号のパイロット、巴武蔵は額の血を拭うと再び操縦桿を握る。

「ホントの力の三分の一以下なのにコイツはよくやってくれるよ」

敵のミサイルが当たる寸前、オープンゲットをし、ゲッター3からスピード重視のゲッター2にチェンジする。多少ダメージはあるがゲッター3よりははるかにマシだ。

襲いかかるメカザウルス達の間を音速以上の速さで移動し次々と左手のドリルの餌食にしていく。

「もらった!!」

リーダー機らしき肉食恐竜タイプのメカザウルスに背後から穴を開けてやるうとしたが、メカザウルスのパイロットも判断が早かった。その鋭い牙でドリルを噛み砕いたのだ。

「くそっ!!ドリルロッキュー!!」

残ったドリル部分をその他のメカザウルスに射ち捨てる。

「メイン武装がないゲッター2じゃ分が悪いな。オープンゲット」
再びオープンゲットし、今度は空戦重視のゲッター1へと姿を変える。

「喰らえゲッタービィィムウツ!!」

腹部からピンク色のビームを発射し、周囲のメカザウルスに浴びせていく。ゲッター線を濃縮したゲッタービームはゲッター線が天敵である爬虫人類にとつてまさに殺戮兵器以外何物でもない。直撃を免れた機体もかすつただけの機体も皆機能停止した。パイロットの爬虫人類が溶け死んだのだろう。

「ふふふ。苦しいだろう。特別サービスだ。もつと苦しめてやる」
そう言う武蔵はゲッタービームの出力を最大にした。

大量のメカザウルスを倒せたが、ゲッター自身も自熱で溶け始めた。
「ふははは……消え去れクソトカゲ共!!」

「止めるんだ、武蔵君!!」

突如通信が入った。相手はこのゲッターロボを設計開発した早乙女博士だ。

「このままでは君もゲッターもろとも死んでしまうぞ。ここは一度研究所に……」

「戻つてどうするんです?ここで食い止めなきゃ人類は滅びますよ?」

「だがリョウや隼人もいない状況では……」

「死ぬのは覚悟の上です。うまくいきや俺一人の命で全世界の人類を守るんですよ?」

「だが、しかし……」

これ以上何を言つても無駄だと判断したのか武蔵は通信を切った。
そして生き残つたメカザウルスをトマホークでめた切りにしていく。
その果てには、濃い霧の中に浮かぶ巨大な船の影があつた。

「アレがゴールのいる戦艦ダイか」

ダイはゲッターロボを遥かに凌駕した大きさをしている。パイロットが足りない、しかも満身創痍のゲッターロボではすぐ吹き飛ばされてしまうだろう。だが、それでも武蔵は進んだ。

「こんなに近くなのにメカザウルスが一匹もいないなんて……よほど自信があるのか……それとも全部倒しちゃったのか」

飛んでくるミサイルを避けながら武蔵は考えていた。

ゲッタービームの出力を最大にすれば倒せるかもしれない。だがそうすれば回避運動がとれないし、万が一射っている最中にゲッターが爆発したら敵を殲滅できない。

（……アレを使ってみるか。ゲッター最大最強にして最後の技、ゲッターエクスプロージョンを！）ダイはゲッターロボを遙かに凌駕した大きさをしている。パイロットが足りない、しかも満身創痍のゲッターロボではすぐ吹き飛ばされてしまうだろう。だが、それでも武蔵は進んだ。

「こんなに近くなのにメカザウルスが一匹もないなんて……よほど自信があるのか……それとも全部倒しちゃったのか」

飛んでくるミサイルを避けながら武蔵は考えていた。

ゲッタービームの出力を最大にすれば倒せるかもしれない。だがそうすれば回避運動がとれないし、万が一射っている最中にゲッターが爆発したら敵を殲滅できない。

（……アレを使ってみるか。ゲッター最大最強にして最後の技、ゲッターエクスプロージョンを）

ブローグ 前編（後書き）

ブローグなのに前後編とはいかに……

感想などお待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9556t/>

ゲッターロボGO！！

2011年10月8日03時47分発行